

●特集:「都心(下町)のクオリティ」

1. 港町新潟雑感 .....	01
2. 暮らしのクオリティが見えるまち .....	04
3. “人に優しく美しいまち商店街”しつらえとして “アーケード・歩車道”リニューアル経緯とこれから .....	05
4. 新潟の食 .....	08
5. 触—新潟島を巡る諸相 .....	09
●第20期定例総会 .....	12
●代表幹事会報告 .....	14
●国際委員会 .....	14
●事業委員会 .....	14
●事務局より .....	15

特集:  
「都心(下町)の  
クオリティ」

港町新潟雑感

櫻井 淳 Sakurai Jun 櫻井淳計画工房 広報委員

当初、新潟市都心のクオリティを5つの「しょく」で読み解くつもりで、外側から櫻井と吉田さん、半分外側から山中さん、そして新潟地元の人との何人かで、スタートした。5つの「しょく」は「食」、「色」、「職」、「触」、「植」であった。結局集められた原稿は、「触」-山中さん、「職」-酒井さん、「食」-川上さんの3本で、最後に編集委員の櫻井がまとめることになった。この号が遅れたことに責任を感じつつ、港町新潟の私なりの感想をまとめる。

実は、新潟市を訪れたのは、初めてだ。この歳まで訪問できなかったのは不思議で、何故か縁がなかった。新幹線をおりて、最初に萬代橋に出会う。アーチが美しい、大河信濃川にかかる、新潟市のシンボルである。この橋を渡りながらいわゆる新潟島の都心に向かう。新潟市としての私の先入観は、「新潟地震の時の映像」、「マンガンボン号」、「開港5都市」、「アビレックス新潟」くらいであった。都心部の本町通から古町、西堀通り、東堀通りを歩くうちに、この町は相当の奥深さを秘めた町であると感じた。かつての港町色町の風情を感じさせる料亭や小さな路地(かつての掘割)が網の目の様になっていて、堀に沿って柳が植えられ、柳の芽が色づいた古町通りとして「柳都」と呼ばれるほどだったそうである。

食に関してだが、新潟出身の坂口安吾がエッセイの中で、「湯づけ」のことについて、「新潟市だけの特例」として、冬になると「湯づけ」というものを食べる。冷飯を湯でさっと煮てタクアンぐらいをオカズにカリカリゾロゾロとする。まことにどうも哀れ惨たんたる食べ物で、云々と雪国の貧しさを象徴して書いていた。しかし新潟の食文化のレベルは相当高い。魚は勿論だが、新潟市の地酒も相当にうまい。新潟は港町として北前船で栄え、遊ぶ町として、独特の食文化の伝統を持っていた。

古町の花街としての歴史は江戸初期の「遊里遊郭番付表」で京都・大阪・江戸に次ぐ賑わいであったという。市内の堀割の景観と北前船の経済的繁栄が港町色町を形成していた。明治当初に訪れたイザベラ・バードをして感嘆させた水の都であった。明治の大火の後、遊郭は移転し、芸事が中心の花街へと変化した。昭和初期には新橋・祇園と並び三大花街と呼ばれるまでになり、現在でも当時の高級料亭の建築物が多く残っている。その水路も昭和39年の新潟国体を期に30年代に埋め立てられ下水と道路になった。また最近まで、新潟は拉致事件のイメージがあり、かつて佐渡島の流人と金山への拠点であり、国際魔界都市とでも呼べる、不思議なクオリティを持っている。



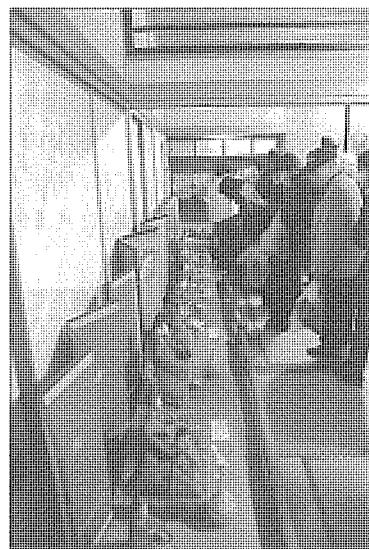
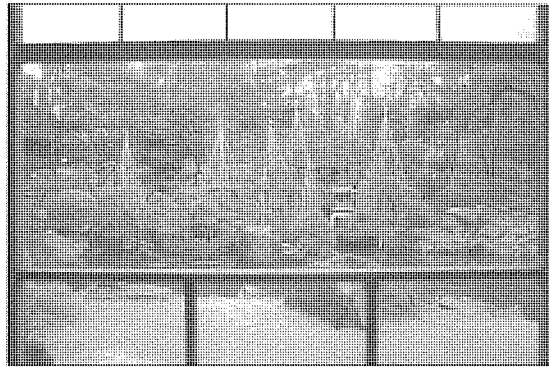
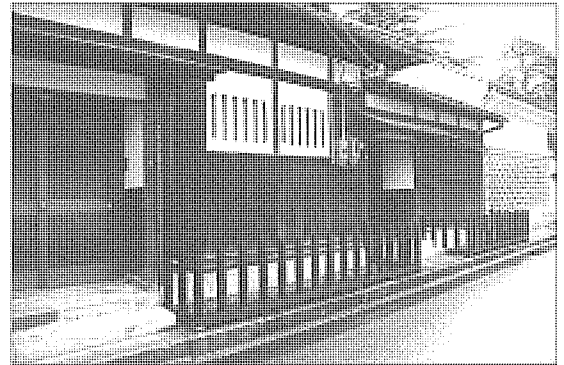
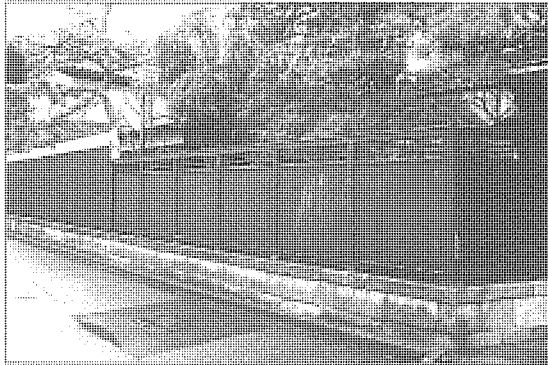
鍋茶屋の塀

山中さんの文章にもあったが、最近新潟市が露中韓との交流事業行っており、日本海を視野に入れた国際都市として活動しており、かつて満州と東京を結ぶ拠点都市であったようで、地政学的役割を目指しつつあるようだ。明治期に日本への進出に出遅れたイタリアが新潟に注目して進出したことは興味深く、日本海を地中海になぞらえ、重要性を見抜いていたのではないかと勝手に考えたい。

この古町を含む新潟の都心も多くの地方都市と同じように、郊外SCと万代シティの開発等によって空洞化はやってきた。最盛期が1970年代で、映画館も3館あったが、80年代から凋落がはじまり、90年代はかな

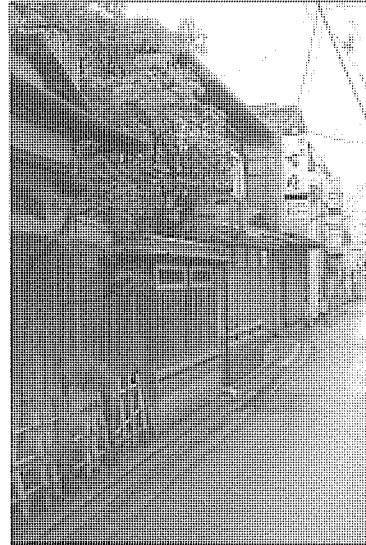
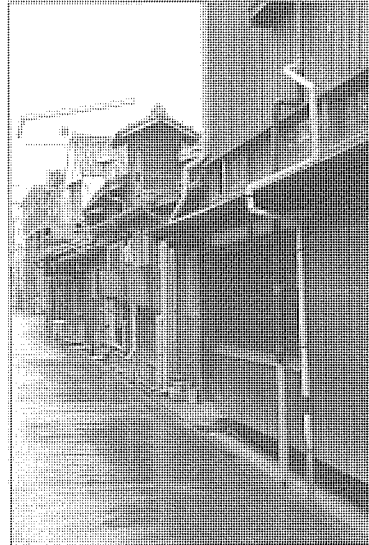
り歩行者通行量も低下した。2006年くらいから再開発事業の具体化し、様々な施策が打ち出され、今後「街なか」再生策は進むように思われるが、都市の資産(ストック)を生かしたマネジメントが新潟は重要であろう。

あえて言えば国際魔界都市新潟の魅力を顕在化し、そのクオリティを高める施策がある。例えば、アビレックス新潟の頑張りは日韓ワールドカップからのサッカー界の成功例であるように。新潟都心部の再生は市民と行政・財界が一体となり、都心部が持つ資産の魅力を如何に生かすかにかかっている。今度は時間を作って、新潟都心部をもう一度ゆっくり歩きまわってみよう。



日本情緒が残る白壁通り界隈。国の有形文化財となっている行形亭にはおひな様が飾られ、多くの観光客が訪れていた

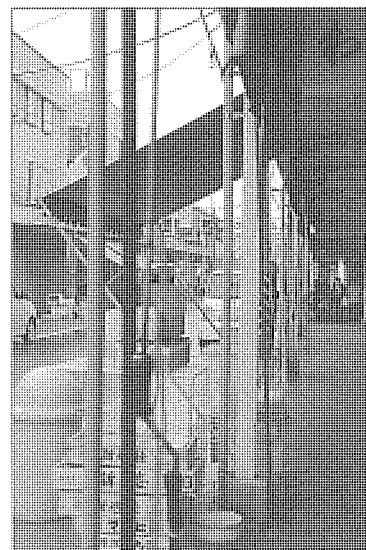


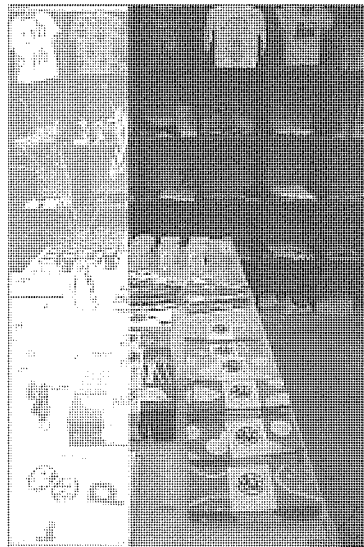


かつては古町芸者の置屋が沢山あった、老舗料亭や割烹があり、古き良き時代の雰囲気が残る界限



新鮮な農作物・海産物が並び、元気な声が飛び交う本町市場界限





白山神社に近く、和洋様々な新しい店舗が並ぶ上古町アーケード

# 暮らしのクオリティが見えるまち

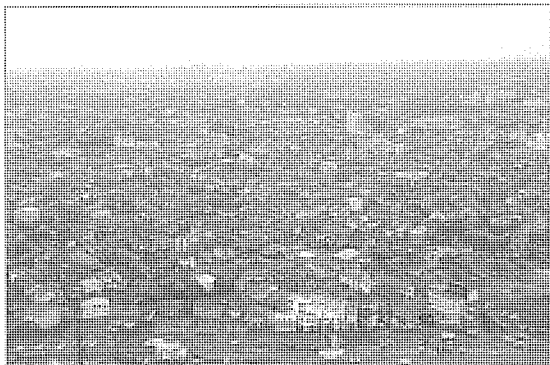
吉田慎悟 Yoshida Shingo 色彩計画家

“都心のクオリティ”というテーマで記事を集めるために JUDI 広報の櫻井さんと新潟を訪れた。そして最近アーケードが改修された上古町商店街で、新潟在住の横山さんと待ち合わせた。

数年前、私は地元の人達がカミフルと呼ぶ上古町商店街のアーケードの架け替えに関して色彩アドバイスを求められた。同じ時期に色彩ワークショップの企画を新潟県から依頼されたので、この上古町のアーケードを題材にまちの色を考えてみようと思った。

商店街には賑わいが求められる。日本の商店街のアーケードは派手な色彩で塗装されることも多く、かえって個々の店舗が目立たないと感じていた。新しく架け替えられるアーケードの色彩は目立たないように落ち着いた色調にしたいと考えていたが、一般の住民がアーケードの色彩をどのように考えるかということにも興味を持っていた。そのためワークショップではアーケードの色彩をこちらで誘導することは避け、それぞれ自由に考えてもらうことにした。また1ヶ月程で撤去される予定であった古いアーケードの供養の意味も含めて、最後にきれいにお化粧してあげようとも考えた。

色彩ワークショップも終わり、アーケードは撤去された。その後架け替えられる新しいアーケードの形が決まり、私達が提案した落ち着いた色彩で塗装された。参加出来なかった上古町のアーケードの竣工式の写真も送ってもらって見ていたが、完成後の姿を自分の目



本館がっせ・新潟コンベンションセンターから見た新潟の黒い瓦のまち並み

で確かめるのは今回が初めてであった。

大きなアーケードが掛けられた明るい古町商店街を抜けて、カミフルに入ったが、古町との対比でカミフルは少し暗く感じた。閉じたシャッターも少し寂しげだったので、アーケードの色彩はもう少し鮮やかな色を使い、照明ももっと明るくした方がよかったのではないかと最初に感じた。

横山さんと会い、この計画を推進した地元の商店主とも合流した。しかしこの商店主からは私が危惧した地味さに対する苦情はなく、店舗が目立ってよい雰囲気になったとほめられた。私達が訪れた時間帯には既に閉店した店も多く、昼間をもっと賑わいがあるということだった。安心して周囲を見渡すと改修前にはなかった新しい店舗がずいぶん増えていることに気が付いた。カミフルでは初期の家賃を補助するなどして、20数軒あった空き店舗をほとんどなくしたようだ。そこには若い人達も加わってまちに活気が出てきたという話だった。その夜にはそのような話を裏付けるように、新しいイベントが企画され、私達もそこでおいしいお酒を振る舞ってもらった。商業コンサルや店舗デザイナーは仕事を取るために店舗やアーケードに過剰な装飾を加えることも多いが、地元で練られた質の良いイベント企画や、品のよい商品ディスプレイをしている落ち着いた店舗や、控え目だが凝った意匠の看板などが織り合わされて、地域に根付いた質の高い商店街が出来るのだろう。目新しさや目立ちばかりを追求しては、真に快適な空間は育たない。地域が育てた名産品やその場にある自然の景色と深く関係することによって、暮らしのクオリティを体感出来るまちになるのだと思う。

今回はこのような視点で新潟を歩いたが、時を経た建築物が残され、美味しい酒と肴が味わえるこのまちの魅力を再発見した。

タワーの上から眺めた黒い瓦が広がる新潟のまち並みも印象的だった。

# “人に優しく美しいまち商店街”しつらえとして “アーケード・歩車道”リニューアル経緯とこれから

酒井幸男 Sakai Yukio 新潟市上古町商店街振興組合

## ■上古町の取り組みの始まり

1. 2004年チャレンジショップを適応  
西堀地下・ヨリナーレから福岡の若者3人が応募して古町3番町に出店してきました。
2. 同じ時期に2004年「上古町まちづくり推進協議会」を立ち上げ、まちづくりの勉強を始めました。

## ■カミフルマークの話

まちづくりの勉強を進めていく中「この街は情報発信が足りない」ことに気づき、その第一歩として「カミフルマーク」を作成。

現在では、ホームページや各種イベントを通じて定着してきている。

\* 上古町は門前町・神社のマーク

\* ○が四つの意味は四町内が集まって人がやってくる古町になりたいという意味。



## ■カミフルチャンネル(情報誌)の話

次に「上古町を知って頂く」ことを目的に情報地図「カミフルチャンネル」の作成。

(3のコンセプト)

1. サイズ:手のサイズ・約20cm
2. 表紙:面白い・手にとって見ようと思わせるもの。
3. 文字:出来るだけ細かく、持って帰ってよく見ていただく。

2004年に第1号を発行し、現在では第8号まで発行している。

## ■ワタミチの話

空き店舗対策としてまちづくりの情報拠点「ワタミチ」でコミュニティスペースの貸出を行ってきた。これは元々「渡道酒店」という老舗酒販店であったが、店主が高齢になり店を閉めることを聞き、真向かいでTシャツ販売・デザイン店を営む迫一成理事(もともとは地元新潟商工会議所・TMOが運営するチャレンジショップの卒業生)が借り受け、上古町進行組合も事務所を一緒に置いて、コミュニティサロンスペースに活用。

「ワタミチ」は、人と人が繋がって、何か面白いものが生まれる居心地のいい場所であり、「学ぶ+考える+カタチにする+伝える+繋がる+楽しい」をコンセプトに置き、約20坪を色々な教室(写真教室・デッサン教室・日本酒教室など)や各種作品展や劇団の催し会場などに利用されていた。

現在は迫理事が経営のデザイン集団「ヒッコリースリートラベラーズ」が新しく開店している。

## ■アーケード改築の話

1. 最初に新潟の事と上古町の昔の事等を勉強しました。
2. 住んでいる人達と外来者からアンケートをとりました。  
その結果  
(1) 明るいアーケードがほしい  
(2) 買い物途中で休めるベンチがほしい  
(3) 駐車場がほしい  
(4) 気軽に立ち寄れるギャラリーがほしい  
(5) 気楽に利用できるトイレがほしい  
(6) ライトアップ等の美観づくり  
(7) まちの情報案内板・案内所がほしい
3. 我々の自己負担ではアーケード改築の実現は無理、そこで、新潟市、商工会議所、新潟県中小企業中央会のご指導を受け、補助金を受けるには「法人化」が必然。
4. 2006年3月:1・2・3・4番町と各番町を超えての法人化を実現。
5. 2006年6月:公募プロポーザルで設計者を選ぶ。
6. 2007年アーケード設計。
7. 2008年2月:「新潟市中心市街地活性化協議会」特定民間中心市街地活性化事業計画として、上古町の事業計画を説明・協議会の認定を受け、アーケードの改築(総事業費約7億円・国と市より96%を補助)に踏み切った。
8. 2008年6月:関東経済局に申請中の「アーケード改築事業の、原案」通りに採択されました。
9. 2008年7月:入札・工事内訳書等精査の結果、新潟の(株)福田組に正式に決定。
10. 2009年3月:アーケードは完成。
11. 歩車道は、その後10月に、上古町と意見交換をしながら、いま実現可能な最善の歩車道を新潟市さんから整備して頂きました。

上古町商店街では、ソフトとハードの両面から商業集積地としての魅力を形成することにより、集客力を創出しようとしています。



■取り組みの効果

かつて新潟市の商業の中心地であった上古町商店街も衰退のため家賃が下がったことと、上(かみ)町という古くからの雰囲気が残っていたことから、徐々に若者が出店するようになり、又、いろいろな話題が口コミで広がり県外からも出店の打診や視察があるなど、魅力の再発見に繋がった。又、この魅力と街のもつ温かみを情報発信することにより、新しい経営者の進出を更に促すことが可能となる。又、旧経営者は新経営者や若手経営者と共生・刺激し合うことにより活力のある商

いの場の形成ができていると思っている。これによって消費者に利用され、近隣の住民に愛され、地域コミュニティに寄与することができると思っています。

■今後の課題など

上古町の今後の課題としては

1. 郊外大型店及び百貨店等の商業施設との差別化
2. 周辺居住人口に即した歩行者通行量・売上高の低迷に対する対策
3. 消費者ニーズに対応した業種構成の補完
4. 組合の組織力、後継者育成の強化が挙げられる。

**【取り組みの効果】**  
 上古町商店街は、新潟市の中心地であり、この街には、100年以上の歴史がある。また、古くからの雰囲気が残っていることから、徐々に若者が出店するようになり、又、いろいろな話題が口コミで広がり県外からも出店の打診や視察があるなど、魅力の再発見に繋がった。又、この魅力と街のもつ温かみを情報発信することにより、新しい経営者の進出を更に促すことが可能となる。又、旧経営者は新経営者や若手経営者と共生・刺激し合うことにより活力のある商

**【地図中の記号について】**  
 (P) 上古町商店街がある  
 (A) アーケードの店舗の位置  
 (B) 店舗の間に階段・段差がある  
 (C) トイレを併設してある店舗

**【ショップクラブ情報】**  
 本町商店街のショップクラブは、新潟市の中心地であり、この街には、100年以上の歴史がある。また、古くからの雰囲気が残っていることから、徐々に若者が出店するようになり、又、いろいろな話題が口コミで広がり県外からも出店の打診や視察があるなど、魅力の再発見に繋がった。又、この魅力と街のもつ温かみを情報発信することにより、新しい経営者の進出を更に促すことが可能となる。又、旧経営者は新経営者や若手経営者と共生・刺激し合うことにより活力のある商

**【ここはどこ？ 街の数字の使い方】**  
 上古町商店街は、新潟市の中心地であり、この街には、100年以上の歴史がある。また、古くからの雰囲気が残っていることから、徐々に若者が出店するようになり、又、いろいろな話題が口コミで広がり県外からも出店の打診や視察があるなど、魅力の再発見に繋がった。又、この魅力と街のもつ温かみを情報発信することにより、新しい経営者の進出を更に促すことが可能となる。又、旧経営者は新経営者や若手経営者と共生・刺激し合うことにより活力のある商

**【おむすび屋】**  
 本町商店街の中心地であり、この街には、100年以上の歴史がある。また、古くからの雰囲気が残っていることから、徐々に若者が出店するようになり、又、いろいろな話題が口コミで広がり県外からも出店の打診や視察があるなど、魅力の再発見に繋がった。又、この魅力と街のもつ温かみを情報発信することにより、新しい経営者の進出を更に促すことが可能となる。又、旧経営者は新経営者や若手経営者と共生・刺激し合うことにより活力のある商

**【古町商店街】**  
 本町商店街の中心地であり、この街には、100年以上の歴史がある。また、古くからの雰囲気が残っていることから、徐々に若者が出店するようになり、又、いろいろな話題が口コミで広がり県外からも出店の打診や視察があるなど、魅力の再発見に繋がった。又、この魅力と街のもつ温かみを情報発信することにより、新しい経営者の進出を更に促すことが可能となる。又、旧経営者は新経営者や若手経営者と共生・刺激し合うことにより活力のある商

**【Old Fellow Trama】**  
 本町商店街の中心地であり、この街には、100年以上の歴史がある。また、古くからの雰囲気が残っていることから、徐々に若者が出店するようになり、又、いろいろな話題が口コミで広がり県外からも出店の打診や視察があるなど、魅力の再発見に繋がった。又、この魅力と街のもつ温かみを情報発信することにより、新しい経営者の進出を更に促すことが可能となる。又、旧経営者は新経営者や若手経営者と共生・刺激し合うことにより活力のある商

情報地図「カミフルチャンネル」

上古町は『温古知新』の精神が基本です。

- ・人に温かいまち
- ・古きよきまち
- ・心知り合うまち
- ・新しいことにチャレンジするまち

今後もこの理念を踏まえ、新しい事にどんどんチャレンジをしていきたい。

#### ■これから

商店街の元気のバロメーターの1つは空き店舗を出来るだけ少なくする事だと思い、空き店舗対策委員会を立ち上げ、家主と新規出店者のマッチングを進め、現在の上古商店街の強い推進力となるテナントを精力的に誘致、それをより実現化するために新潟市・新潟商工会議所から「空き店舗対策の補助事業」を受け、2009年~2010年にかけて4店舗を誘致開店し、また今年、新潟県の「空き店舗・緊急雇用対策補助事業」を受託し上古町に「カミフル・サイクルステーション」を上古町商店街自らが開店した。そのような動きをうけて、近年上古町の店舗数は110で、そのうち空き店舗は21~22あったのが、アーケード・歩車道リニューアルを境に空き店舗は5に減少しました。

また古町中心地区を取り巻く状況は、榎谷小路の大和デパート・北光社・東堀のウィズビル等の撤退、古町通りの通行量減少も数字にも出ているように、良くはありません。そのような中、上古町の通行量は少しですが増加しています。これは上古町としては大変良い成果だと思っています。上古町商店街が売り上げや利益追求だけするのではなく、周辺地域に貢献をする意味で、国指定重要文化財・「新潟県政記念館」の指定管理者の一翼をにない、文化ゾーンとの回遊性を提案し、また2007年立ち上げた「自転車を活用したまちづくり推進協議会」にもメンバーとして参入、高級観光自転車のレンタルを提案、「スマートクルーズ」・「自転車の社会実験」などの活動を実施している。



#### ■私が思う「かみふるまち」

私は歴史ある老舗店と若いモダンなお店が混じっている商店街と、その奥に生活の香りが漂う上古町小路が好きです。

「日本全国中心市街地商店街がさびれている中、唯一繁栄している商店街の形がある。どういう商店街であるか?それは門前町商店街である」と聞きました。まさに上古町は文化ゾーンと多くの神社の門前町商店街です。また昨年に「人にやさしい、温かい商店街」をコンセプトにアーケード、歩車道をリニューアル致しました。先日、中心市街地活性化の会議に来られた建築家の隈研吾さん(新しい歌舞伎座建て替え改修を担当)が上古町を見て「通りは近代的に美しくなったが、ひとたび小路の奥に入ると350年前の江戸時代からの歴史の香りが感じられる面白い街」と話され、また中央から視察に来られた行政の方達も「面白い街ですね、普通のお店はないのですか?」と上古町に全国チェーン店がないことを不思議がられておりました。

地元商店が並ぶ上古町が単に面白いだけでなく、東京のまちづくりの専門家がアメリカの中心商店街を視察した時、「チェーン店の地域貢献度は14%、地元の商店の地域貢献度は46%」という話を聞いたそうで、地元の店が商店街・地域にとっていかに大切であるかを数値で示して力説をされていました。まさに上古町商店街が地域とその周辺のコミュニティにおいて重要なポジションにあることを認識していかなければならないと思っています。

これからも上古町は人・地域を大切に考え、個性的な企画・催し等を展開していきたいと思っています。

上古町を今後もよろしく!



# 新潟の食

川上伸一 Kawakami Shinichi NPO 法人堀割再生まちづくり 新潟代表

## 1. 新潟の夏色

この夏は暑かったが、枝豆は旨かった。夜明け前にとれた枝豆は市場へ直送され、昼には八百屋やスーパーに届く。夕餉にはホカホカの茹でたて、フックラで鮮やかな緑色の枝豆たちがたっぷりと並ぶ。これが夏の新潟の風物詩。

更に畑では、真っ赤なスイカやトマト、青々したキュウリやナンバン、黄色のトウモロコシ、紫色のナスと、総天然色の野菜たちも勢揃いして心躍る眺めである。

都市では、そのカラフルな野菜や果物が商店の軒先を華やかにし、食べものの色を真似た服を着る女性たちに愛想をこぼし、次々に買われて街中を彷徨している。

青い空と赤い太陽の下、モノクロの街の往来や横丁には、光の三原色を映し出した野菜たちが出没し、夏色の光景が生れては消えていく。

かつて新潟に堀があった頃には、その色また色が水面に描写され、ゆらゆら輝いていたことだろう。

## 2. 新潟の秋音

果てしなき夏は一陣の風に追放された。ひと風吹くごとに、陽射しで歪んだ街並は背を正され、ひと雨降るごとに、路地の隅にまで残った熱気は消されて、夜ごと鳴く虫の音にヒトの鼓動が同調されていく。

そして晴れ上がり、収穫の秋を迎える。稲刈りが始まり新米が届く。猛暑を耐えた野菜たちも元気な姿を現す。げんなりしていた魚たちも精気を取り戻してきた。山のきのこたちも今年は豊作だという。

食べものたちは、かつては舟に載せられ川から堀を辿り、街中で商いされていた。恐らく上機嫌で、鼻歌を唄いながら舟旅を楽しんでいたに違いない。

轟音を立てるトラックで運ばれる今も、店主の売り声と共に微笑んではいるが。

彼らの来し方、街の行く末を想いつつ、今宵も古町で一献傾けていると、裏通りを木枯らしが駆け抜けていく。祭りのあと、短い秋は終幕となる。

## 3. 新潟の冬味

突然、パラパラとアラレが落ちてくる。シベリア将軍到来のベルに街は咳き込み、建物も道路も人々も冬支度を始める。

本町市場で、朝から煮干風味ラーメンをすすり、下町の食堂で、昼に天ぷらそばをすする。増殖中のイタメシ屋で、たまにはパスタも。麺類は新潟モンも大好物。

家で晩飯喰うなら、サケやタラやサバが主役で。煮付けか、野菜たっぷりの鍋か、酒は勿論、ご飯もすすむ。家庭サービスは笑顔を生み、幸せな一夜を招く。

因みに、来港する客人が所望するブリやナンバンエビ

がスターになったのは、つい最近のことである。

古町の小体な料理屋では、煮物や焼物や漬物などを一品ずつ楽しみ、連れや相客と親しく杯を交わし、さらりと腰を上げる。興がのり、小路から小路をうろつきハシゴする夜も、またよし。凍える通りに人影は見えなくても、暖簾をくぐれば温かい人情に出逢えるはず。

しんしんと雪が降り続くなか、西堀通を走るクルマが轍をつくる。アスファルトが黒光りして、かつての堀のようである。

## 4. 新潟の春香

白粉を塗りこめた街がほころび始める。雪下に隠れていた塵芥を掃除し、ぬるんできた水をまくと、南風が乾かしていく。

冬眠から目覚めた街は、初春の陽射しを精一杯浴びて光合成しているようだ。真似された生きものたちは、青菜を土中から、海草を水中から誕生させ、春の香りを街に運んでくる。

やがて、山からタケノコや山菜、海からハマグリやサヨリが続々届き、かぐわしき生命の交歓によって、永い冬に溜め込んだ脂が、少しずつ洗い流されていく。

花々や草木も蘇り、街が華やいである。春の舞台が整い、役者が揃ったら、太巻やお稲荷さんを詰めたお弁当をもって、早速街へ出よう。

柔らかな光を受けて、きらきらと輝いていた堀は消えたが、残された柳の枝からは今年も新芽が息吹いた。う〜んとのびて、ふか〜く息を吸うと、かつての堀端に並ぶサクラが満開となって目前に広がってくるようだ。

# 触一新潟島を巡る諸相

山中知彦 Yamanaka Tomohiko 新潟県立大学

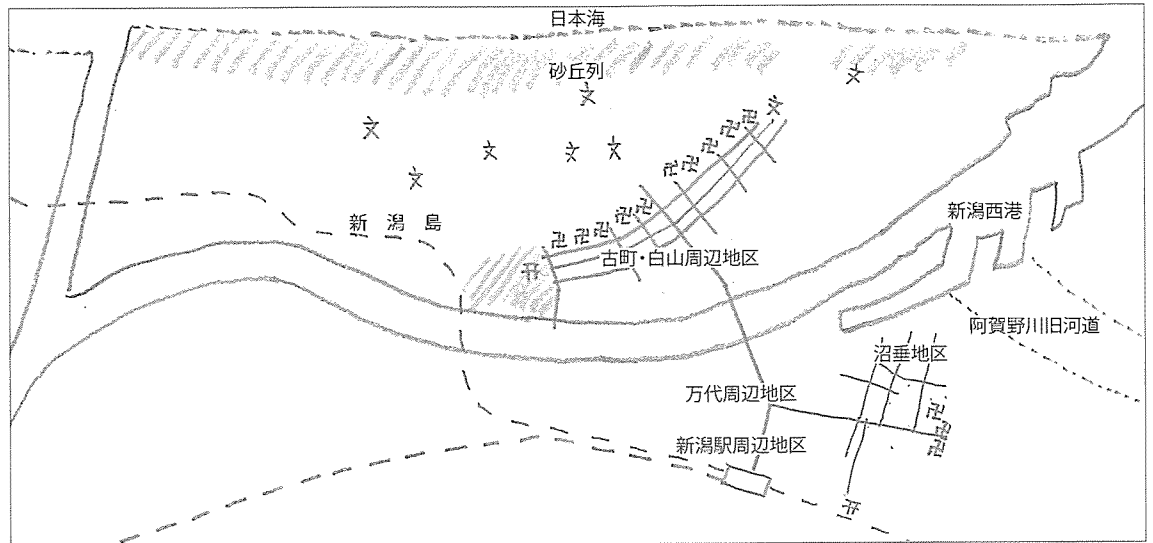


図1. 新潟市の都心の立地と新潟島の立地特性概念図

## ■新潟市の都心

新潟市の都市計画マスタープランにおける都心は、古町・白山周辺地区/万代周辺地区/新潟駅周辺地区の3地区が接続連携する形で描かれている。その現状を見ると、古町・白山周辺地区は歴史的市街地としての面白さは奥が深く、後述するように様々なまちづくり活動が息づいているが、交通ターミナル機能に欠け、地元では商業地としての衰退が声高に語られている。万代周辺地区は信濃川の氾濫原であった流作場を昭和初期に区画整理して形成された街区に、近年バスセンターを中心に商業核が出来た局所的な若者の街で、国指定重要文化財・萬代橋を軸に信濃川に開かれた景観の魅力があるものの、街の奥行きや歴史性に欠ける。新潟駅周辺地区は、全国どこにでもある新旧の業務および飲食街やホテルが鉄道の南北に不連続に広がり、街の賑わいや個性に欠ける。何れも「帯に短し襷に長し」の観は否めず、都市マスに謳われる連携には距離や規模がややスケールアウト気味で、実情は競合している。とはいえ、大都市圏や他の地方中核都市の中心市街地に比較すると、潜在的な都市環境の魅力は格段に高い。

その魅力を解明するために、そもそもの都市形成史を紐解けば、信濃川と阿賀野川が会って日本海に流れ出ている戦国時代、河口には三ヶ津と呼ばれた蒲原津、沼垂湊、新潟津の三つの湊が二つの川を挟んで対峙していた。当時誕生したばかりの新興の湊であった新潟町は、その後信濃川の土砂の堆積によって湊が浅くなり、長岡藩は中州の白山島・寄居島に計画的な町割を行い本流側を新たな湊として移転した。さらに、江戸時代の沼垂町との湊訴訟や新発田藩の放水路工事の決壊による阿賀野川の流路変更を経て、幕末には函館、横

浜、神戸、長崎とならんで外国船の開港五港に選ばれたが、水深の浅さと冬の季節風で、開港後外国船の利用は殆ど無かったという。しかし、明治11(1878)年に横浜から北海道まで旅した英国の女性旅行家 Isabella Bird は、7月に1週間以上滞在した新潟町の様子を詳細に記録し、他都市に比べた格段の町並みの美しさを Handsome, prosperous city と讃えている。賞賛の対象は、信濃川に接続した堀割とそれを基準とした通りと小路による町割と建屋の調和にあった。

## ■新潟島の立地特性

日本海と信濃川、さらに昭和47(1972)年に開削された関屋分水に囲まれた島状の地域を、地元では新潟島と呼んでいる。新潟島の中心に当たる古町・白山周辺地区の都市構造は、明暦年間(1650年代)に中洲の島に移転した際の町割りや踏襲している。「島」と呼ばれるに至った背景には、移転時の記憶があるのかも知れない。白山神社を起点に古町通りが中心軸となり、平行した東掘り・西掘りを介して本町・寺町が並び、直行した堀と小路によって変形グリッドを形成し、1960年代に次々と堀が埋められ通りとなって現在の街区構成に至っている。一見すると近代都市計画によってつくられたかと思える広幅員道路が街なかに通る古町・白山周辺地区は、実は堀の埋め立てによって道路をほとんど拡幅することなく車社会に適応し、震災も免れた街区には古くからの建屋も残っている。そのため、白山神社から信濃川の下流に向けて、上古町・古町・下町という町の流れの中に、花街や職人町をはじめとする短冊状の職種の配列が感じられる近世初期の町割がほぼ現在に伝わる稀有の都市構造といえる。

..the town has a picturesqueness very unusual in Japan... With its canals with their avenues of trees, its fine public gardens, and clean, picturesque streets, it is a really attractive town. ... 出典：Isabella L. Bird / Unbeaten Tracks in JAPAN / DOVER Ed.

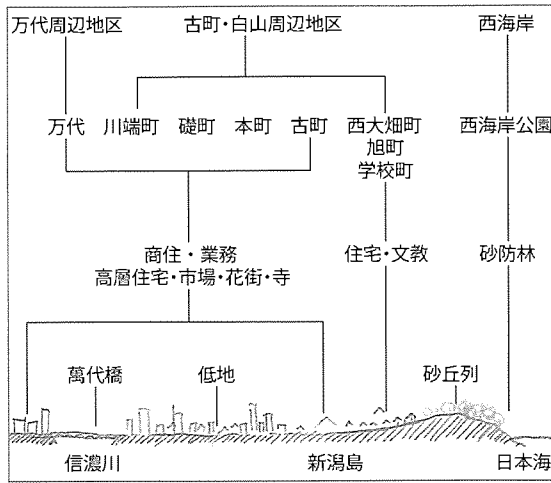


図2. 新潟島の模式断面図

一方、古町・白山周辺地区は1km以内の徒歩圏で信濃川と日本海に接している。これを地形的に観ると、日本海に並行して砂丘列の高台が走り海側の斜面は松林の砂防林、川側の斜面は住宅・文教地区から寺町へと移行し、信濃川に近い低地に市場町が連なり、山手から下町(down・town)に移行する圧縮されたストライプ状の都市構造を形成している。この間を通り小路による変形グリッドの歴史的街路が走り、日本海と信濃川を渡る風の道ともなり、まさに水と風と都市形成史に触れる親自然・歴史環境が横たわっているのだ。

#### ■知られざるまちづくり活動と街の魅力

全国的にはあまり知られていないが、新潟では市民による様々なまちづくり活動が活発に繰り広げられている。新潟島界隈に限ってみても、昨春当地に赴任した私が知り得た範囲で、「新潟まち遺産の会」、「にいがた寺町からの会」、「新潟水辺の会」、「新潟シティガイド」、「掘割再生まちづくり」、「萬代橋景観フォーラム」等々。特に歴史的環境保全については、民間と行政が連携しながら買取・公開を進め、他都市とは一線を画しつつある。そして活動の多くが接触しながら交流し、行政を含む集团的リーダーシップのワイワイガヤガヤ・ネットワークが、実に新潟のまちづくり活動の秘訣であるように思える。

今秋、このネットワークの延長線上に「全国路地サミット in NIIGATA」が開催され、本誌も含め少しずつ新潟の街からの情報発信が始まった。しかし、内省的で競争や目立ちたがり屋を好まない新潟人気質もあってか、同じ幕末の開港五港で現在政令市の横浜、神戸と較べると、互角に渡り合える新潟の街の魅力があまり知られていない。そこで県立大学では先ず市民に街の魅力を再認識してもらおうと、昨秋花街の料亭を会場に、公開講座「外国人教師の目で探る新潟の街の魅力」を開催した。韓国・英国・米国を祖国とする3名の教員に自由に新潟の街の魅力を語ってもらうと、奇しくも3名とも故郷のソウル、レスター、ピッツバーグの「水辺」と「歴史」に触れながら新潟に共通する街の魅力に言及し、会場から納得の賛同を得た。

#### ■環日本海交流に向けたまちづくりへ

話は変わるが、日本海対岸のロシア・中国・韓国を括った「露中韓」という言葉を耳にしたのは新潟に赴任してからであった。というのも、新潟市では全国に先駆け環日本海諸都市との交流を都市政策の柱に据えて、当時の裏日本という偏見を逆手にとった都市のアイデンティティ確立に挑んできた。ロシアとの関係は、昭和40(1965)年にソ連極東の中心都市ハバロフスクと、さらにその後ウラジオストク、ビロビジャンとも姉妹都市提携を結び、新潟ロシア総領事館や新潟空港からの航空路が都市間国際交流を支えている。中国との関係は、亀田郷土地改良区が黒竜江省三江平原の土地改良事業に協力したことが縁となり、昭和54(1979)年にハルビン市との友好都市提携を結び、やはり新潟中国総領事館や新潟空港からの航空路が都市間国際交流を支えている。朝鮮半島との関係は、歴史的に見ると大正末期から昭和初年にかけて、新潟から現在の北朝鮮への航路が開設された。1932(昭和7)年の満州国建国を契機に、新潟港は満州移民の出発港となり、大陸との交流の拠点として活況を呈することとなった。さらに、1959(昭和34)年以降、新潟港は北朝鮮帰国者の出航地となり、多くの帰国者を送り出すことで大陸との新たな関係を深めた。韓国との関係は、日韓共催ワールドカップサッカー大会を契機に、蔚山広域市との交流協定が締結されている。そして現在の新潟市の姉妹・友好・交流協定都市の交流先7都市中5都市が露中韓に立地し、当初行政主導であった都市間国際交流も、長年の継続の中で市民の草の根交流へと発展し、国家の枠を超えた民間国際交流の成果を挙げつつある。特に、毎年露中韓から多くの子どもたちが新潟島の大畑少年センターや陸上競技場に集まり、新潟の子どもたちとの交流を繰り広げる様は、グローバル化への対応を迫られた地域社会にとって、かけがえのない財産を築くものと思われる。



写真1 毎年露中韓から子どもたちを招き、新潟の子どもたちと交流を図る民間活動「はばたけ21」も、来年で20周年を迎える。

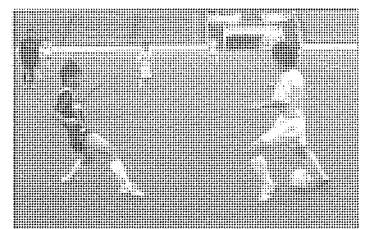


写真2 隔年で新潟と韓国・蔚山を訪問しあい、ホームステイで親交を深める日韓少年サッカー交流事業も10年の節目を迎えた。



昨年の新潟赴任以来、地元メディアが繰り返し新潟島を中心である古町商店街の衰退と緊急対策を声高に伝えているのを見聞きする。確かに空き店舗対策、テナントミックス、駅からのワンコインバスなども対症療法として意味はあろうが、本質的なまちの魅力を市民が共通理解しない限り、古町への集中的な公共投資は従前同様、政策そのものの転覆を招くリスクを背負う。

商店街活性化というフィルターで現在の古町に焦点を絞り、全国共通の隘路に迷い込む前に、本学公開講座で3名の外国人教員が共通して指摘した「水辺」と「歴史」という観点から新潟島のロケーションの魅力の共通理解を促し、さらに固有の広域的立地特性である環日本海諸都市との交流を展望した方向性が、新潟のまちづくりの基本であるように思う。

中村伸之 Nakamura Nobuyuki ランドデザイン 代表幹事

日時:2010年7月17日(土) 13時00分~14時50分  
場所:芝浦工業大学豊洲校舎304教室(東京都江東区)

## 1. 開会

代表幹事の大矢京子氏の司会により、第20期定例総会の開催が告げられ、関東ブロックの作山康氏から開会挨拶があり、続いて議長に代表幹事の松本篤氏が、書記に代表幹事の中村伸之氏、高谷時彦氏が、議事録署名人に関東ブロックの茂手木功氏と小早谷信之氏が選出された。

## 2. 議事

### 第1号議案 新役員承認の件

伊藤登選挙管理委員長による説明が以下の通り行われた。

#### (1) 代表幹事・監査役の選挙結果

代表幹事10名が選出された。監査役は、小浪博英氏、江川直樹氏の以上2名が選出され承認された。

#### (2) ブロック幹事の選挙結果

各ブロックの13名がブロック幹事として選出され承認された。

### 第2号議案 第19期活動報告および収支報告承認の件 第3号議案 第20期活動計画および収支計画承認の件

#### (3) 第19期活動報告

代表幹事の埜正浩氏より、第19期の活動が報告された。

##### ■概況の報告

20周年記念事業の企画立案、会員の維持と若手専門家の増強、専門的見識の発信、都市環境デザインの再定義、他団体との連携の強化などを活動方針として、活発な活動を行った。ブロック間、会員同士の交流が活発になったといえる。

##### ■会員の動向

北陸ブロックで会員数が増え、関西・北陸ブロックで準会員が増えた。

##### ■代表幹事会の活動

20周年記念事業では特別委員会と協力し企画の検討、各ブロックへの呼びかけ、シンボルマークやフライヤーの作成を行ってきた。

リタイアした方を対象とした特別会員制度を創設し規約や内規の改定を行なった。

日本学術会議協力学術研究団体に指定され本会の存在価値、位置づけを高めることになった。

#### (4) ブロック活動報告

■北海道ブロックの酒本宏氏より、19期は「こどもの遊び場環境」に関する JUDI サロンを開催、まちづくり促進協会とのジョイントアップしたトークサロンなどの報告があった。20周年記念事業の企画を検討中であるが、「幸せな風景」のシリーズを2回、パネル展示などを開催したいと考えている。

■東北ブロックの永松栄氏より、19期はまちづくり団体との協力を推進し、三春キャラバンなど開催し、20周年記念事業に向けた検討を進めていることが報告された。

■北陸ブロックの川上洋司氏より、19期はフォーラムなど毎年2回開催したこと、11月に学生の研究発表会を行ない、若い人に会員になってもらったこと、富山で「北陸版コンパクトシティの実現に向けて」と言うフォーラムでは、環状線、レンタルバイクなどのエクスカーションを行なったことが報告された。

■関東ブロックの栗原裕氏より、19期はキャラバンシリーズや、押しかけリレーセミナーひとことサロン等を継続して行い、天竜、三春、柴又、築地、パナソニック電工などを訪問したとの報告があった。20期もこれらの活動を継続し、「自然と歴史とまちづくり - 懺悔からの出発 -」をテーマに展開する。

■中部ブロックの谷口庄一氏より、19期はなごや環境大学の講座3回分を担当し、盛況のうちに終えることができた。関東ブロックと天竜キャラバンを開催した。不況で会員に元気がない中、今年は何とか景気良くしたい。生物多様性COP10と連携して、カナダからコミュニティガーデンの活動家を招いてシンポジウムを開催する。

■関西ブロックの中村伸之氏より、19期は10回の都市環境デザインセミナーを開催し延べ約400名の参加を得た、海外セミナーは22名の参加でイタリア訪問、さらに、過去20年間の会員の仕事を総括したフォーラムを開催したとの報告があった。

■中国ブロックの長沼眞智子氏より、19期は歴史的町並み保全に関する意見交換会を宮島、三次、津山、米子で開催し、まちづくり調査・提案を行ったこと、なまこ壁調査の報告会を開催したことが報告された。20周年記念事業として各地区でオープンカフェを実施しながら「笑顔の景のプロジェクト」を推進することが報告された。

■四国ブロックの真田純子氏より、19期は四国環境デザイン紀行を3回開催したことが報告された。これは毎年行なっている見学会でビデオ映像資料が大量に集積したためコンテンツの活用を検討しているとのこと。20期も引き続き四国環境デザイン紀行を3回程度開催

する。

■九州ブロックの尾辻信宣氏より、19期は第4回九州都市景観フォーラムを「メインストリートの都市デザイン」というテーマで福岡市景観室と共催で実施したことが報告された。

まちづくりセミナー2009では、巨匠と言われる建築家・構造家の作品を訪ね、湯布院の観光まちづくりを振り返った。その他「九州らしい地域づくりと都市環境デザイン」の研究などを行なった。

■琉球ブロックの新嘉喜長健氏より、19期は8回の定例会で20周年記念事業の準備について検討し、沖縄のコンクリート建築文化を探ると言うテーマで、建築士へのヒヤリングを実施し視察会を行なったこと、タイムス住宅新聞への投稿(12回シリーズのうち5回)を行なったことが報告された。

20周年記念事業フォーラムとして「沖縄のコンクリート建築・文化を探る」をテーマにツアーやシンポジウムを行なう。

#### (5) 委員会活動報告

■広報委員会の松村みち子氏より、第19期の広報活動は「生活空間の質(クオリティ)を高める都市環境デザイン」を中心テーマにニュースレターを発行したこと。新入会員紹介のコーナーを設けたことなどが報告された。

20周年記念事業を紹介する内容とし、広報委員のマンパワーを強化し紙面のデザインを刷新し、過去のニュースレターのデジタルアーカイブ化を進めることが報告された。

■研修委員会の鳴海邦碩氏より、19期は会員数の少ないブロックの活動支援を視野に入れ、発表会型、研修型のセミナーをブロック連携で行ったこと、各ブロックの研修プログラムに関する貴重なご意見をいただいたことが報告された。

20期は「半島・島」を対象としたブロック連携プログラムや「景観形成のための目利きを育てる」と言うテーマでUDCとの共催プログラムを行なうことなどが報告された。

■事業委員会の横川昇二氏より、第19期にモニターメッセを仙台で開催し、韓国からも参加があったこと、ポストモニターメッセを12月に行なったことが報告された。

20期はモニターメッセに5社が参加、ポスター参加が6社であったこと、「JUDI パブリックデザイン賞」を創設しようとして準備中であること。これまでのレビュー集を企画していることが報告された。

■国際委員会の服部圭郎氏より、19期に国際セミナーは開催していない。20期は海外情報が広く流布している現在、国際委員会の役割を1年かけて検討する会議を重ねることが報告された。

■美しい都市ランキング委員会の高見公雄氏より、19期の鶴岡でのランキング2009で一休みとし、20期は未評価都市を対象にランキングをし、しあわせな風景100選の選定を行なうことが報告された。

■20周年記念事業特別委員会の堀口浩司氏より、19期は全体のイメージ(統一テーマ)づくりやシンボルマークの選定、各ブロックで使えるフライヤーの作成を行なったこと。

20期には7月に関西で総会を行い、記念事業の総まとめとして、記念フォーラムを開催する計画であることが報告された。

#### (6) 第19期収支報告及び監査報告

代表幹事の埜正浩氏より、第19期の一般会計部門と特別会計部門の報告があった。

特に質問はなく、続いて監査役の小浪博英氏より6月28日に江川直樹氏とともに会計監査を実施し、間違いのないことを確認したとの報告をいただき、一部の委員会は予定通りの活動ができていないので今後の奮起をお願いする、各ブロックの活動はよくできており高く評価できるなどのご意見をいただいた。

#### (7) 第20期活動方針および収支計画

代表幹事の埜正浩氏より、20期活動方針について、JUDIは20周年を迎えるが高齢化、会員減少化傾向が続く、社会への情報発信はまだまだ弱いため、記念事業を機に若手会員の増強や他団体との連携に取り組み、活動の活性化を図る方針が説明された。

また同氏より、代表幹事会の会議費を50%削減するなどのコスト削減を盛り込んだ収支計画書の説明があった。

以上の説明に対して、伊藤登氏より、定年退職による会員の減少は避けがたく、若手や準会員の増強が望ましいが、さらに経費の削減に努力すべきこと。メールなどにより会議費を減らし、事務所費削減のための移転も検討すべきとの意見があり、提案として受け止め検討することとした。

### 3. 議決

満場一致で第2号議案、第3号議案はすべて承認された。



## 速報!! 代表幹事会からのお知らせ

中村伸之 Nakamura Nobuyuki ランドデザイン 代表幹事

1.20周年記念フォーラム・総会の日程が決まりました  
会場は「ならまちセンター(奈良市)」です  
詳細は検討中で、次号のニュースレターやホームページで広報します

2011年7月16日(土)午後

JUDI 賞プレゼンテーションならびに授賞式20周年記念フォーラム「都市デザインのシルクロード」懇親会

2011年7月17日(日)午前・午後

年次総会、全国ブロック幹事ならびに会員の意見交換会

各ブロック・委員会からの記念事業の報告

小冊子「(仮称)JUDI20年の歩み」の紹介

エクスカッション

懇親会

2011年7月18日(祝)

特にプログラムはありませんが、希望者にはお勧めコースをご紹介します

2. 公募制プロジェクトを若手支援型にリニューアルします

・2年間休止しておりました公募制プロジェクトを来年度から再開します

・50歳未満の若手会員が中心に企画運営し、若手同士やブロック間の交流を深めるような企画を募集します(年間総額60万円程度の助成を予定しています)

・詳細は3月1日にメーリングおよびホームページで広報します

【過去の採用プロジェクト】

第16期(2006年度) 応募3件、採用3件

1.「琉球の美を探る~伝統の技からその美を考えるⅢ」琉球ブロック(代表者 石嶺 一)

2.「市民の目線に立った金沢パブリックアートプロジェクトⅡ」北陸ブロック(代表者 谷 明彦)

3.「シュリンキングシティの計画を考える~事例研究とシンポジウムの開催」シュリンキングシティ研究会(ブロック横断的、代表者 柳田良造)

第17期(2007年度) 応募2件、採用2件

1.「縮小都市の課題と計画を展望する~夕張シンポジウムの成果を社会化する」縮小都市研究会(ブロック横断的、代表者 柳田良造)

2.「街路空間のデザイン検証」北陸ブロック(代表者 川上洋司)

第18期(2008年度) 応募5件、採用5件

1.「国際比較による東アジア地域の環境色彩分析」(ブロック横断的、代表者 横川昇二)

2.「歴史資源を活かした『もてなし』の演出」東北ブロック(代表者 斉藤浩治)

3.「鶴飼の水辺環境デザインを計画する」水辺環境研究会(ブロック横断的、代表者 柳田良造)

4.「第3回九州都市景観フォーラム」九州ブロック(代表者 尾辻信宣)

5.「フォーラム 08『公共空間・笑顔の景』(岡山県協働事業)の開催」中国ブロック(代表者 宮迫勇次)

## 国際委員会

服部圭郎 Hattori Keiro 明治学院大学 国際委員会委員長

国際委員会はJUDI20周年を機に、委員会自体をリセットし、新たにゼロからの出発ということで、今後の10年間を見据えた活動を展開しようと考えております。具体的には情報ネットワークを重視した活動に重きをおきたいと考えております。この20周年という記念すべき年には、3月4日にドイツを代表する都市デザイナーであるクリスタ・ライヒャー教授による講演、そし

て5月には井口勝文氏の講演を企画しております。

また国際委員も新たに募っております。いろいろと不慣れな点もありますが、一緒に活動してもよいと考えていただける会員の方がいらっしゃいましたら、是非とも国際委員になっていただければとお願い申し上げます。

## 事業委員会

横川昇二 Yokokawa Syouji 横川環境デザイン事務所 事業委員会委員長

事業委員会からのお願い

当委員会では、過去19回に及ぶモニターメッセに焦点を当て、その成果を「レビュー集」としてまとめる事、過去に発表されたもの及び会員が関係した施行実績を対象に「JUDI パブリックデザイン賞」という懸賞事業を実施する事になり2011年早々にホームページに掲載し広報と公募を開始した。公共事業関係予算が減少する中、都市環境を構成する施設や単位となる空間の新

しいものだけでなく、時間を経過したものを評価する場を設け顕彰することは「パブリックデザイン」の意義と重要性を明確にし、JUDIが都市環境形成や景観づくりに大きく貢献していることを示す機会となることを確信している。ブロック幹事、会員各位のご推薦とモニターメッセ参加企業の皆様からの応募を切にお願いいたします。

## 事務局より

### 1.新会員の紹介

2010年5月~12月の入会者は下記の通りです。

(入会順、敬称略)

12月31日現在の会員数は、390名です。

韓 湧澤 INO BLOCK(海外)

中川景子 Skidmore, Owings, & Merrill LLP(海外)

高橋芳文 興和サイン株式会社(関東)

谷口雅彦 株式会社都市環境研究所(関東)

河野康治 京都大学大学院(関西)

末永匡美 高知工科大学大学院(四国)

### 2.退会者(2010年5~12月)

大塚幸雄 片桐宏典 清本三郎 熊澤輝一 高橋宏子

竹内 きょう 田中 稔 丹沢孝一 橋口周良

宮迫勇次 宮本 孝二郎 吉田 薫 野中綾美

前田伸人 増田 岳 松本貴子 片山正樹 (敬称略)

### 3.住所変更等(敬称略)

尾辻信宣 合同会社G計画デザイン研究所

〒810-0041 福岡市中央区大名2-10-31-202

Tel.092-791-7661 FAX.791-7662

津田勇夫 株式会社グランドプラン

〒550-0013 大阪市西区新町2-3-8

Tel.06-6538-8003 FAX.6538-8007

土井 勉 京都大学大学院工学研究科

〒615-8540 京都市西京区京都大学桂C1-2-313

Tel.057-383-2818 FAX.075-383-2820

松田 昇 株式会社環境創研

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷6-1-18-201

Tel.03-3792-6791 FAX.3792-6555

山本勝也 株式会社旭ダンケ 東京支店

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-3

Tel.03-5447-5981 FAX.5447-5980

### 広報委員会

松村 みち子 白濱 力 加茂 みどり 菅 孝能

岸田文夫 中嶋猛夫 松山 茂 櫻井 淳

横山 あおい 吉田慎悟 島 博司 服部圭郎

横山 裕 作山 康